TAMA ZOOLOGICAL PARK

50th ANNIVERSARY

多摩動物公園50年史

インドサイ

日本に初めて来たインドサイ

インドサイのオス「多摩王」(現地名・ルプシン)が多摩動物公園に来園したのは1958(昭和33)年11月10日で、当時5～6歳と推定される。京王帝都電鉄(現・京王電鉄)から寄贈されたもので、インドサイが日本へ来たのはこれが最初となる。当時はまだ現在のインドサイ舎はなく、「ゾウの城」(現在のアジアゾウ舎)の西半分にあったサイ舎へ搬入された。

野生の生息情報として、国際自然保護連合のレッドデータブックでは、生存数は約740頭(1966年)と推定されていた。2007(平成19)年現在では、2619頭との報告がある(International Rhino Foundation)。

「ラニー」を迎えて

1961(昭和36)年にインド政府からメスのインドサイが寄贈された。これが「ラニー」である。

7月19日にカルカッタを出港し、途中シンガポール、香港などを経由して8月15日に横浜港へ到着した。翌16日には無事に多摩動物公園へ搬入された。このとき旧ラクダ舎を改造して旧インドサイ舎(1961～2007年)がつくられた。

「サイ太郎」の誕生

多摩動物公園では、この貴重なインドサイを何とか繁殖させようと努力した。1967(昭和42)年6月11日に流産があったのち、1973(昭和48)年12月20日に待望の赤ちゃんが誕生した。

このオスの赤ちゃんの名前は一般から募集され、井上泉さんの「サイ太郎」に決まった。1974(昭和49)年1月20日に行われた命名式は、駐日インド大使、常陸東京都副知事、歴代の園長を迎えて盛大に行われた。

サイ太郎と母親のラニー　SAITARO and mother

最初にやってきたインドサイ「多摩王」

サイ太郎はその後、国際的な繁殖協力のため、1978(昭和53)年12月10日にキャセイ航空の貨物機で、成田空港からオランダのアムステルダム動物園へ旅立った。残念ながら、1989(平成1)年5月24日に異国の地で15歳の若さで亡くなった。

ラニーは来園前に1回(あるいは2回)の出産経験があり、多摩王との間にも1967年の流産、1973年にはサイ太郎を産んでいる。1989(平成1)年6月から下痢と食欲不振による衰弱症を起こして、起立できない状態にまでなったが、飼育担当者の献身によって一時は回復した。しかし、推定10～15歳で来園してから30年余りのちの1991(平成3)年12月3日に、推定45歳で亡くなった。

1995(平成7)年7月16日には推定42歳で多摩王も亡くなり、多摩動物公園からインドサイは一時姿を消すことになる。

新しいメンバー

1998(平成10)年5月、スイスのバーゼル動物園から「ター」という名の1頭の若いオスを寄贈するという手紙が届いた。10月2日に、過去7年間インドサイを担当したことのある飼育調整担当者がスイスへ引き取りに向かい、6日早朝に輸送箱へ追い込み、バーゼルからフランクフルト空港まで高速道路を時速80kmで陸送したのち、17時間の空輸後、成田空港に